府大教ニュース
・学長会見

2021.3.18
発　行
No.772

府大教情宣部発行
堺市中区学園町１－１
大阪府立大学内
TEL/FAX　072(257)8992　(直通)
072(252)1161　(内線2751)
e-mail: fudaikyou@leto.eonet.ne.jp
http:// www.fudaikyo.org

府大教役員がコロナ禍における教育研究活動や新大学での大学運営について学長と会見しました

2021年1月27日、大阪府大学教職員組合（以下、府大教）は、コロナ禍における教育研究活動や新大学における大学運営などについて、辰巳砂学長の考えをお聞きするため学長会見を行いました。会見は、法人から辰巳砂学長、高橋副学長、柳事務局長、小野部長、大久保部長、川端課長らが出席し、府大教から岩村委員長、岸田副委員長、楠川副委員長、中村副委員長、庄村副委員長、小嶋書記長、上田書記次長が出席して行われました。

会見で学長は、設置認可申請の進捗を中心に新大学の準備状況について説明され、府大教は新大学発足が近づくに従って生じた疑問点について質問しました。また、コロナ禍における教育研究活動の課題について意見交換を行いました。

会見の抄録を以下に報告します。

府大教：学長、本学の執行部のみなさまにはコロナのなか本学の運営および新大学の準備で多大に貢献いただいていることにお礼申し上げる。教職員としても協力しているが情報が足りないと思い執行部の考えをお聞きしたい。よろしくお願いします。

辰巳砂学長（以下、学長）：教職員のみなさまには日頃から多大な協力をいただき、こういう困難な状況のなか、新大学の開学ということも控えお忙しい思いをさせていることに対し申し訳ないという気持ちと同時に感謝している。情報が足りないという指摘があったので少し話したい。文部科学省への設置申請の書類を提出し、その後のことに関しては、12月22日に文部科学省から審査意見を付されたということを受け、新大学推進委員会を通じて新学部等設置準備委員会を経て個別の審査意見について検討いただいているところ。私も昨日設置審のヒアリングがあり文科省の面接審査を受験したところ。新大学に向けては毎週、新大学準備担当理事をトップに両大学の副学長や事務長をメンバーとする新大学推進委員会において設置認可申請に関わる事項を優先的に検討しており、各ワーキンググループにて検討作業を依頼するとともに、新大学推進委員会で取りまとめたことについては月1回新大学推進会議において審議し決定しているところ。この状況、内容については統合連絡会議で毎月1回報告している。1月にも開催した、そういうところに報告している状況。学内で情報共有しているのでおわかりいただきたい。今後も必要な情報提供に努めていきたい。新大学の入試、入試方法、基本となる学部学科、関係機関の組織の骨格、教育研究、社会貢献のあり

方、キャンパス整備計画、学生支援、国際交流など教職員一丸となって着実に準備を進めているところ。私としても副理事長、学長という立場で今までの大阪府立大学の歴史と伝統や市立大学のよいところをうまく活かして融合させ新大学が本当に国内外に誇れるすばらしい大学となるように職責を果たしていく所存。新大学を本当によりよいものとできるように最大のチャンスと捉えて大学内部の改革を着実に進めていく必要があると考えている。組合、教職員のみなさまにおいても、ご理解ご協力を引き続きお願いしたい。

府大教:新大学の準備等、説明いただいた。昨日の文科省のヒアリングにご出席いただいたというお話だったが、特に現代システム科学域に対しては厳しい意見が付いたということは聞いているが、全学的に感触をお伺いしたい。

学長：感触といえば、設置審ですので専門家はいろいろな分野ごとにおり、現代システム科学域が特に分野が幅広いということで、さまざまな質問や是正すべきであるということを意見いただいたが、きっちり対応させていただくということで理解いただいたと考えている。感触は良かったと。

府大教：作業を進めていけば乗り越えられると。

学長：そういう感触。初めて出たので感触がいいか悪いかわからないが、先生方のご協力を得ていろいろな対応をしていただき真摯にお答えしたということもあり、がんばっていただきたいということで、感触はよかったと思う。

府大教：年末にいただいた意見に対する対応方針を示されたが、その方向性で間違いはなかったということか。

学長：そこまではわからない。いろいろな意見をいただいたことに対して、特に現代システム科学域については、大塚学域長から丁寧な説明をし、わかりましたということなので、感触はよかったと。

府大教：設置が認められるかということ以外の新大学の準備状況で課題とかはあるか。

学長：いろいろなことを並行して進めているので予定通りいっているかどうかということは、今粛々と進めているところで、先生方にもご協力いただいているが、粛々と進めているということに尽きる。余裕があるわけではないが。

府大教：設置認可に向けて大変な作業をされていることは承知しているが、新大学の広報に関してはかなり遅れているのではないかという感覚がある。たとえば Web サイトは来年 5 月に入試広報が立ち上がるが、新大学のサイトとして作っていくのは2022年 4 月の開学と同時になる。また広報の取り組みを行っていく組織体としても副学長以上の広報戦略会議で検討いただいているが、教職員がそこに意見をフィードバックできるような仕組みは今までは持っていなかったとか、かなり心配しているが、どのようにお考えか。

学長：新大学に関しては法人で一本化されていて、荒川学長が委員長、私が副委員長の広報戦略委員会でいろいろな課題については詰めている。Web サイトは業者が決まって、先生方に関しては、全体のつくりはそこでやりたいと思っていて、部局ごとの部分をどう作るかについては早急におろそうと話しているが、それがまだおりてきていないが、できるだけ速やかにお知らせして、全体のつくりの中の部局等のところに統一感をもってやりたいと思っている。非常に遅れているというわけではないというつもり。国際的なこととかも広報はいろいろな面で国際広報のワーキングも立ち上がっているし、Web は最終的にオープンになるのは2022年4月だが、当然それの半年前とかにはできている状況なので、それ以前に出せるものは出していきたい。Web に関しては本当の意味では2022年の4月。

高橋副学長（以下、副学長）：今入試準備委員会をやっていた。入試広報について話す場所がなかったが、入試準備委員会のもとに入試運営部会を設けて、入試運営部会のなかで前中後期等の実際の入試運営の話と新大学の入試広報については使うと決まっ

ていて、今委員の選出をお願いし２月から開催する形になっている。そこで進めていきたい。

府大教：現大学では、入試委員会と入試広報部会は切り分けられていて、効率がよく非常にうまくまわっている。新大学では入試運営委員会のなかで入試広報も両方されるということだが、なぜ今の良さを生かして二つに分けないのか。

副学長：両大学の今までのやり方自体とは異なっていて、いろいろな委員会はほとんどこれから。入試がすすんでいて、どういう形で委員の選出や、両大学でどうやるかを決めるのが難しい状況。入試広報をきちんとそこに位置付けるというのも難しい。市大は入試課で入試の広報をあまりやっていない。広報課でやっている状況もあり、そのあたりで入試広報をどこで扱うかというのはなかなか難しいが、入試運営部会のなかでやりましょうと進めることになった。

府大教：組織を分けるところまでは市大の理解は難しかったが、今までなかった教員も一緒に入試広報に取り組むような組織が一つできる段階まできたと。

副学長：そういうこと。

府大教：新大学に向けて今年中に中百舌鳥キャンパスで新しいキャンパスプランの話を聞いているが、入札は進めていると伺っているが、進み具合はどうか。

学長：特に問題が生じているとは聞いていないので、予定通り進んでいると認識している。

府大教：工事が重なることになると思うが、うまくいけば学生もキャンパスに戻ってくることになると思うので調整をよろしくお願いしたい。

学長：工学域工学研究科の方のヒアリングは終わっていますよね。

府大教：個々にはあがっていて、入札のところまではいっていると伺っている。その先が聞こえてこないので心配している。

学長：細かいところまでは理解していないが、心配はしていない。特に中百舌鳥キャンパスが遅れているということは聞いていない。

府大教：新大学のキャンパスプランだが、現実には森ノ宮構想というものが出ているが、コロナ禍のもとで大阪府の財政状況も厳しい状況だし、この１月４日に大阪府の来年度予算の内示が出ているが、予算的には新大学のキャンパスプランは大きく変更するということはあるのか。最初 1,000 億と言われていた森ノ宮プランも噂では 800 億になったと聞いているが。

学長：答えるべき立場ではないと思っているが、学長としては、減額は多少されているが、大きなプランの変更はないということで、森ノ宮キャンパスもそうだが、阿倍野キャンパス、杉本も中百舌鳥も大きな支障が出ることになるようなことにはなっていないと思っている。

府大教：大きく変わっているという認識はないと。大阪都構想の影響が大きいと聞いているが、コロナのなかで大きな支出がある、税収もかなり落ちるだろうというなかで、これまでだったらいろいろな所に手当ができていたところに手当ができなくなってくる。今回の１月の内示でもかなり削られているという状況だが、府立大学の来年度の運営費交付金、あるいはそれ以降の施設補助金についての変更はほとんどないという認識でいいか。

学長：そう考えている。キャンパスに関しては削減されているが、計画に変更があるような削減ではないと認識している。

府大教：キャンパスプランに関しては細かい情報がまだ出ていなくて、具体的なことがまだできていないのではないかという印象。特に森ノ宮、中百舌鳥、杉本については既存のものがどうなくなってどうなるというのは共有しているが、森ノ宮新キャンパスに関しては予算もそうだが、基本的なプランはあるが、具体的なイメージがわかない。そこでどういう教育をするかと他のキャンパスでどうするのかという話になるので、実際にどのくらいの構想が固まっているのか。

学長：例えば中百舌鳥キャンパスなら関連する工学域、生命環境科学域の先生方には、こういう風な感じと。
府大教：生命環境はこうだとはあるが、他の細かいところまでは知らされていない。他の学科に出張して講義をするようなケースもあり得るので、関連する学域だけではなくて、キャンパスごとでいいので、そのキャンパスではこんな感じというのを、そのキャンパスの教員にはある程度イメージを持てるようなものを出してほしい。
学長：今基本設計で、それぞれの当該の教員には具体的な図面が出てきていると思う。他も全部見たいというのはわかるが、図面を出すということがなかなかやりにくいということで、森ノ宮に関しては総リハの先生方は図面のなかでどこに行くということはヒアリングをしている。ライブラリーに関しては図書館ワーキングで検討している。個別には検討していただいているが、全体の建物のイメージもある程度出ているが、今の時点では出しにくい。
府大教：全体像としてどのあたりで全教員の配置がわかるのか。
学長：確定するということが重要で今は途中経過なので、混乱することがあると思う。
府大教：大学の設置審の方で、キャンパスのプランがある程度審査にかかってくると思うので、その結果が出た段階で確定だと考えていいか。
副学長：8月末で認可がおりる予定。図面は現行のものを出して審査となっているが基本設計段階なので実際の施工業者が決まった場合にまた変更することもあり得る。そこは入札等の話もあるので、その業者が決まった段階にならないと出せない。
学長：新大学の連絡会の時、それ以前の推進会議の時もキャンパスプランに関する図面は基本的には共有しない形で進んでいて、そこはご理解いただきたい。どんな感じというのは、その建物に入る方は見ているので。それぞれで進んでいると理解して。キャンパスプランを含めて粛々と進んでいる。
府大教：学生に建物はどうなっているのかと聞かれるので、ある程度見込みがあれば。
学長：正確な図面を出せないというだけで、イメージとして、こういうものができますよというものは段階で示していくことは、学生にも出していかないといけないと思っている。図面という意味では、慎重にやらざるを得ない。滞っているところは今のところない。
府大教：両現大学がもつ面積≒新大学の面積ということでキャンパスプランを作るという計画だったと思うが、それは今も同じか。
学長：必ずしもそうなっていないと思っていて、工学は比較的そうなっているが、羽曳野から阿倍野に移るとか、森ノ宮に移るとかはそうはなっていない。そういう原則はないと理解している。今ある施設に代わるものとして極端に小さくなったり大きくなったりすることはないと思う。
府大教：学部や学科でみたときに、現有面積をそのまま維持するような考え方か。現有面積調査があった。
学長：場所によって必ずしも同じということはないと思う。杉本と中百舌鳥は比較的近いかもしれない。研究教育に支障がないということが大前提。極端に狭くしようとかはない。森ノ宮キャンパスという新しいキャンパスが一つ増えるわけだが、必ずしも全く同じというイメージはないが、特に新しいものを作るとか、何かを廃止するということはない。
府大教：教員が心配しているのは、新大学になって急に今使っている面積が半分とか三分の一とかになるとするならば、どうやって教育研究のレベルを維持していこうかと非常に困る。極端に現有している面積が少なくなるということはないと。
学長：動くところについては丁寧な聞き取りをしていただいているので、移っていく研究室の内容についても吟味してもらっているので、移ってから初めて気が付くということはあり得ないと認識している。
府大教：実際の面積でいうと減ることになると思うが、その部屋そのものがなくなる

というわけではないのでいいかと思う。
府大教：大学で雑草が多い。手入れが行き届いていない。新大学を日本に世界に誇れるようないい大学にしたいなら、いい環境で学生に教育してほしいためにキャンパス整備、手入れをしていただきたい。
学長：気持ちのいいキャンパスにしたい。ご意見いただいた。
府大教：新大学の部局などを支援する事務組織はいつごろのタイミングで決められるか。その整備はどんな状況か。
学長：事務組織については委員会を作って、両大学の事務局長も入り検討している。法人としての委員会があり、その下にワーキング的なもので、それぞれの大学で事務組織がどうなっているかという実態から、どうあるべきか、というところを事務職員のみなさんがやっている状況。部長クラスの方々が中心となって、今まさに検討しているところ。そのあたりがまとまったところで委員会に上がってくることになっている。
柳事務局長：両大学で教員に対するサービスの仕方とか人員の配置とかの差がなんとなくはわかるが、詳細に比較検討してみないと。できる限り教員、学生のみなさんにサービスの低下をしないようにということで考えているが、限られた人員のなかで、どういう形で事務組織を組み立てるのかということを、両大学の部局ごとに話をしてもらっているところ。いましばらくお待ちいただきたい。
府大教：府大と市大だと部局で事務的な違いがあるはずで、教育のところはある程度すり合わせてできるが、医療系の事務とか特殊なところはどうするのか。
学長：医学部については、事務組織はもともと別になっている。大学が統合するからといってそこはそれほど変化することはないと。
府大教：高専はどうなるか。それも別扱いで事務組織を組むのか。
学長：高専は現状の 2 大学 1 高専で法人という形なので基本的には変わらない状況で法人のなかの高専としていくので、たぶんそれほど大きな変化はないと思っている。
府大教：共通の事務はどうなるのか。
学長：2022 年に統合大学が走る時点では今まで通りで将来的に高専の事務体制をどうするかということはあるかと思う。
府大教：新大学になり各キャンパスを学生や教職員も行き来すると思うが、共通の Wi-Fi 環境というのは設置いただけるか。
学長：今年度コロナで Wi-Fi 環境も重要であるとなって、重要なマターとなり整備していくことになっていると思う。
府大教：府大は共通のものが入っていていけるが、eduroam は市大には入っていないのか。
副学長：市大も入っている。
学長：阿倍野で使っている。
府大教：共通化していく取り組み等は新大学になったら入るのか。
学長：そういう方向。まだ今は二つなのでこれからになる。いろいろなシステムがあり違うところもあるが、統一するべきものは統一する。
府大教：少なくとも府市の共通の研究機関に研究、研修、講演とかで行くので共通化してほしい。
学長：府市の方も検討できることはしたい。
府大教：2020 年、大学教育において困難な状況を迎えたところで、来年度に向けてどうなるかという状況だが、今年 4 月以降を含め、昨年 4 月以降の授業の状況とか、現状でどのようにお考えなのかお聞きしたい。
学長：昨年の 3 月の終わりくらいから 4 月、5 月に入ってからも教員のみなさんには多大なご負担をおかけしたと思っているが、オンラインとして非同期に絞っていただきたいと。資料をきっちりあげていただき双方向でやり取りができ、できれば音声をつけてほしいという話でスタートした。他大学と比べて思っていたのは、オンラインの非同期の形態というのは、それをやっていただけば後々使えて必ず資産になる。対面の授業でも非常に有用な素材として使えるということで、最初にそれを考えていただいた。負担も大きかったと思うが、同期型

でやったほうが簡単だったが、回線がパンクするかもという問題もあるが、今申し上げたような、これから先使っていく資産として残っていくようなものにしたいということがあり、それに関しては学生さんのアンケートをみても必ずしもどちらがいいということはなくて、非同期も同期もそこそこの評価を得ている。どこまで丁寧に対応できたかによって必ずしも満足していない学生さんもいるが、みなさんのご努力で前期、授業をなんとかいけたと思っているし、実験実習に関してはこの時期までやっていただき、前期試験も基本対面でやりきっていただき非常にありがたいと思っている。後期は半分くらいは対面でとスタートしたが、11 月の半ばぐらいに不都合なことがあり 1 週間だけ閉じたがその後も元にもどり、12 月に入ってレッドステージが出て人を減らすという意味で絞りオンラインを少し増やしたが、大学は人が集まってくるという意味で遠くからも来るし大勢来るし、集まった後での会食の可能性もあるので、人を 5 割から 3 割ぐらいに減らしたいということで措置をとった。そのあと 2 回目の緊急事態宣言になって今に至り試験に入っていて基本的には対面でやれているという状況。4 月からの方針は基本的には対面を中心にやるということで、この間にいろいろな対策をしながら、今はアクリル板を導入するとか最大限のことはやって、それでもなお且つこういう状況で学校に来させるのかという人や、オンラインばかりやっていて授業料を返せという人もいる。そういうなかできめ細かく対応しながら 4 月以降もやっていくしかないかなと。ただ今年度の資産みたいなものが蓄積されていると思っていて非同期の資産を活かして授業改善ができると思うし、オンラインで授業がやれたということは、普通の授業だけではなく社会人とかいろいろなくくりの発展が大学としてもいけるのではないかと思っている。オンラインの授業に関してはそういう意味でなんとかやれるかと思っているし、申し訳ないという気持ちはあるが、本学は教職員のみなさんの努力が大きいので、来年も今年のようなご苦労をかけなくてもできるかと思っている。

府大教：教育の質というところでは、現状どうお考えか。

学長：何と比べてかになるが。

府大教；一昨年のと。

学長：今年の前期は急だったので準備も難しかったかもしれないが、1 回準備していただいているので、今後は普通の対面に比べて落ちるということはもうないかと思っている。みなさんそう対応していただけると信じている。そのために非同期でやったということ。

府大教：試験を今対面でやっているが、学生自治会がアンケートをとっていて学生課に渡したが、学生課からなかなか上にあがらないので学長に見ていただけないかということで、持参した。かなり深刻な声が多数あがっているので、ぜひご一読いただきたい。

学長：前期のももらっているが見ている。われわれがやったアンケートに比べると全体的には評価が少し悪いというのは認識している。

府大教：今回はいい悪いということより、試験を対面でするということについて具体的に書いてある。

学長：ありがとうございます。